

日鉄住金工材

チタン製 電着ドラム 生産能力2割上げ

人員・加工設備を增強

【上越】ステンレス・チタン・特殊合金を加工販売する日鉄住金工材（本社＝新潟県上越市、石川昌弘社長）はこのほど、電解銅箔製造に使うチタン製電着ドラムの生産能力を20%引き上げることを決定した。リチウムイオン電池用を中心とする電解銅箔需要が世界的に旺盛なため、人員增強および育成と合わせて加工設備の增強も図り、2020年までに増産体制を整える計画だ。

すでに生産能力の增強策に着手している。具体的には現場の技術者を20%増員して育成中。今後はチタン製電着ドラムの製造現場について、工場建屋を増設した上で作業スペース

と製品置き場を確保して能力增強を図る方針だ。工場建屋は18年末に着工し19年春に完成予定。19年上期に加工設備を導入して20年までに増産体制を整える。当初は10～20%の能力增強を検討していた。しかし同社への電

電解銅箔需要増に対応

着ドラムの引き合い状況から、電解銅箔メーカーの設備投資が想定を上回ると判断。17年度比で20%の能力增強を行うことに決めた。電解銅箔の需要は足元旺盛に推移している。電子回路基板用の銅箔需要も伸びているが、それ以上にリチウムイオン電池用の銅箔需要が特に強い。世界的規模で電気自動車への

のシフトが急加速しているからだ。今後の需要増加も期待される。特に中国、台湾、韓国製の電解銅箔メーカーは電池用銅箔の需要増加を見越した設備投資を活発化。この影響で電解銅箔製造用のチタン製電着ドラムで世界シェア推定70%（累積販売）の日鉄住金工材は16年度後半からフル操業が続く。18年度はすでに現在の生産能力に見合った数量を受注済みという。19年度も9割、20年度についても增強後の生産能力見合いで7割程度が決定しており、不足元は納期が21年以降の商談がすでに始まっている（石川社長）。